



令和元年5月21日

鳥取県知事 平井 伸治 様

届出者 住所 鳥取市的場一丁目1番地

氏名 鳥取市立病院
鳥取市病院事業管理者 平野 文弘
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

鳥取県地球温暖化対策条例第8条第1項 (第8条第4項、第9条第1項、第9条第3項) の規定により次のとおり提出します。

住所 (主たる事業所の所在地)	鳥取市的場一丁目1番地				
氏名 (名称及び代表者の氏名)	鳥取市立病院 鳥取市病院事業管理者 平野 文弘				
主たる業種	83 医療業				
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第3号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 特定事業者以外の事業者				
計画期間	平成31年4月 ~ 令和4年3月				
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度 (実績) (平成30)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度 (計画) (令和3年度)年度 (二酸化炭素換算)	増減率	
	排出量 (1)	5,147.5 t	4,191 t	△ 18.6 %	
	目標設定の考え方	令和元年度に実施する病院改修工事により4,277 tまで削減予定。改修工事完了後も省エネ法の努力目標 (原単位年平均1%削減) に準じ、CO2換算値で年平均1%の削減を目指す			
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度 (実績)	目標年度 (計画)	増減率
	一般病院	二酸化炭素換算 23千㎡	224 t-CO2/千㎡	182 t-CO2/千㎡	△ 18.6 %
		二酸化炭素換算			%
		二酸化炭素換算			%
原単位の目標設定の考え方	延床面積を原単位とし、令和元年度に実施する病院改修工事と運用の見直し等により温室効果ガス18.6%の削減を目指す。				
寄与的取組	取組区分	目標年度 (計画)			
		実数値	二酸化炭素換算の削減量		
	再生可能エネルギーの利用による電力又は熱の供給	(売電量)	kWh	t	
		(熱供給量)	GJ	t	
	再生可能エネルギーの利用による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	(購入量)		t	
	森林保全による二酸化炭素の吸収量を表すものの購入	-	-	t	
	電気、ガスその他のエネルギーの使用の合理化による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	(購入量)		t	
削減量等合計 (2)			0.0 t		

差引排出量 (1) - (2)	基準年度 (実績)		目標年度 (計画)	増減率 (計画)
	5,147.5 t		4,191.2 t	△ 18.6 %
推進体制	①エネルギー管理統括者を中心に、老朽化した設備を高効率な機種へと更新していく等の改善策を順次推進していく。 ②各所属長（診療系・医療技術系・事務系）と連携し、入院・外来患者に支障をきたさないよう範囲での取組を行い目標値の達成を目指す。 ③令和2年4月1日から開始されるESCO事業の受託事業者と連携し、省エネ活動を推進する。			
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	内容	
	令和元年度	ボイラ	高効率ボイラへの更新とA重油から都市ガスへの燃料を転換する。	
	令和元年度	空調熱源	高効率空調熱源へと更新する。	
	令和元年度	給湯設備	エコキュートを導入する。	
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	①院内敷地内駐車時の『アイドリングストップ運動』について看板設置し、奨励している。 ②院内で生じたリサイクル可能な廃棄物（ペットボトル・乾電池・蛍光灯等）及び生ゴミの処分について、再生処理を行うよう業務委託を行っている。			
特記事項				

注1 該当する口には、レ印を記入してください。

2 本計画書における温室効果ガス排出量は地球温暖化対策の推進に関する法律第21条の2第3項に規定する「温室効果ガス算定排出量」の算定方法と同様の方法により算定した量をいいます。

3 本計画書は鳥取県内における事業活動について記載してください。

4 主たる業種には、統計法（平成19年法律第53号）第2条第9項に規定する統計基準として定める日本標準産業分類のうち中分類を記入してください。

5 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。

6 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。

7 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達を採用などを記入してください。